

第18回 東京大学 生命科学シンポジウム 開催報告

主催：東京大学生命科学ネットワーク 共催：東京大学
会場：東京大学 駒場Iキャンパス 21KOMCEE

東京大学 生命科学ネットワークは、生命科学に関わる学内17部局で構成され、生命科学シンポジウムの開催や教科書作成などの活動を通じて、研究教育支援に取り組んでいる組織です。本年も、渡邊 雄一郎 実行委員長（総合文化研究科 教授）の呼びかけのもと、平成30年6月9日（土）、駒場Iキャンパス 21KOMCEEにて、第18回 東京大学 生命科学シンポジウムが開催されました。あいにくの梅雨空でしたが、学内外の学生・研究者・一般の方をあわせておよそ400名の参加がありました。2年ぶりの駒場キャンパスでの開催ということもあり、教養学部の学生さんも多数見受けられました。本年は、24の企業・団体からの協賛・広告と9部局からの部局ブースのご協力を頂き、9人の演者による講演会、181演題のポスター発表会、昼食会、懇談会を行い、盛況のうちに終えることができました。ポスター発表会では審査の結果、10部局より20演題が優秀ポスターに選ばれました。来年度も引き続き第19回 東京大学 生命科学シンポジウムを開催する予定ですので積極的なご参加をお待ちしております。



開会の挨拶をする 村上 善則
生命科学ネットワーク長・医科学研究所長

第18回 東京大学 生命科学シンポジウムは村上 善則 生命科学ネットワーク長（医科学研究所 所長）の挨拶ではじまりました。挨拶では生命科学ネットワークの活動と活動の目的、本シンポジウムの意義について言及されました。本シンポジウムは東京大学で生命科学研究をしている者同士が分野・部局を超えた交流をすることにより研究活動に対するモチベーションを高める機会を作り、研究活動の支援に繋がることを目指しています。講演の終わりには、福田 裕穂 理事・副学長の「この活動を継続していくために、今後も生命科学ネットワークの活動の応援をよろしくお願い致します。」という挨拶で締めくくられました。



閉会の挨拶をする 福田 裕穂
東京大学 理事・副学長

広告・協賛 (50音順)

アサヒグループホールディングス株式会社
味の素株式会社
天野エンザイム株式会社
株式会社池田理化
株式会社カーク
キッコーマン株式会社
キューピー株式会社
協和発酵バイオ株式会社
サッポロホールディングス株式会社
サントリーホールディングス株式会社
株式会社島津製作所
株式会社センシュー科学

東京大学 創薬機構
長瀬産業株式会社
日清食品ホールディングス株式会社
日本ジェネティクス株式会社
名糖産業株式会社
ノボザイムズジャパン株式会社
株式会社日立製作所
フナコシ株式会社
株式会社プリス
株式会社 Mizkan Holdings
株式会社薬研社
株式会社羊土社

生命科学シンポジウムへのご協力、心より御礼申し上げます。

講演第一部 9:20 ~ 11:20

午前の部は4つの部局（法学政治学研究科・医学系研究科・先端科学技術研究センター・農学生命科学研究科）からの講演が行われました。

（講演の要旨は <http://www.todaibio.info/point/00.html> こちらよりご覧いただけます）

日本人の死生観を古事記まで遡って辿る、といった思想史のお話しからはじまり、最先端のイメージング技術を用いた大脳皮質の神経回路の解明、光応答性細胞接着剤を用いた細胞を操るための技術、嗅覚シグナルがどのような受容され行動につながるのかという研究など、多岐に渡る講演が行われました。

会場は常に超満員で、質疑応答の時間には数多くの質問が寄せられ、次第に会場全体が熱気を帯びてゆく様子を感じました。



荻部 直（かるべ ただし）
法学政治学研究科 教授
「日本人の死生観をめぐって」



大木 研一（おおき けんいち）
医学系研究科 教授
「大脳皮質の神経細胞集団による情報表現」



山口 哲志（やまぐち さとし）
先端科学技術研究センター 講師
「細胞を操り、調べるための道具作り」



東原 和成（とうはら かずしげ）
農学生命科学研究科 教授
「生態環境空間を制御する嗅覚シグナル」



講演会場の様子

ポスターセッション

11:30 ~ 12:30

13:30 ~ 14:30

本年は、17 部局から 181 のポスター演題が集まりました。熱心に説明する発表者、真剣に聞き入る聴衆、そして活発な議論が至る所でなされました。発表者からは「レベルが高い環境での発表が自分の成長につながりました」「同じ立場の人が多く、ディスカッションがしやすい環境でした」との意見が寄せられ、このシンポジウムが研究発表の経験の場として、また研究者・学生間の交流の場として大いに活用されていることを感じました。



ポスター会場の様子



ポスター会場の様子



ポスター会場の様子

昼食会 12:30 ~ 13:30

来場者全員が参加可能な昼食会では部局間、世代間を超えた交流が行われました。本年はポスター審査員の先生方も積極的に昼食会に参加していただき、普段はあまり交流機会のない教員と学生との交流も行われました。こういった交流を通じて、大学院生にとっては研究へのモチベーションを刺激されたことだろうと思います。また、教養学部の学生さんからは「様々な分野の先生方や大学院生とお話しができ、進路を選択する際の参考になった」との声が寄せられました。



昼食会場の様子

講演第二部 14:40～17:10

午後の部は大西実行副委員長の司会で、5つの部局（定量生命科学研究所・工学系研究科・人文社会系研究科・生物生産工学研究センター・総合文化研究科）からの講演が行われました。

（講演の要旨は <http://www.todaibio.info/point/00.html> こちらよりご覧いただけます）

腸内細菌の制御という我々の体の中の仕組みの話題からはじまり、音の振動を光イメージングにより捉えるという最先端の技術、病苦に対する共感の必要性・困難さといった誰もが一度は体験し得る課題、植物の成長の仕組み、細胞の形状や細胞にかかる力から胚発生のメカニズムを研究するという新しい切り口の研究など、多岐に渡る講演が行われました。

来場者アンケートでは、学内外の来場者から「どの講演もわかりやすく、また内容もとても興味深く、感心しました。来年も是非参加したいです」という感想を多数いただきました。



司会をする 大西 康夫 実行副委員長
農学生命科学研究科 教授



新藏 礼子（しんくら れいこ）
定量生命科学研究所 教授
「腸管 IgA 抗体による腸内細菌の
制御の解明と応用」



中川 桂一（なかがわ けいいち）
工学系研究科 講師
「音と光で創る医療技術」



早川 正祐（はやかわ せいすけ）
人文社会系研究科 特任准教授
「病いの語りと共感の困難さ」



柳澤 修一（やなぎさわ しゅういち）
生物生産工学研究センター 教授
「植物の栄養環境適応：最適成長の
ための巧妙な仕組み」



道上 達男（みちうえ たつお）
総合文化研究科 教授
「細胞の張力と形から胚発生を
考える」



講演会場の様子

懇談会 17:30 ~ 19:00

懇談会では村上ネットワーク長・渡邊実行委員長の挨拶の後、優秀ポスター賞授賞式も行われ、181のポスター演題から20の優秀ポスター賞が選ばれました。優秀ポスターは参加した17部局中10部局（医学系研究科・農学生命科学研究科・薬学系研究科・理学系研究科・総合文化研究科・工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科・医科学研究所・先端科学技術研究センター）の発表者から選ばれ、それぞれの研究科が切磋琢磨しており、東京大学全体の研究レベルをより高いものに行っているということが伺い知ることができました。



懇談会で挨拶をする 村上 善則
生命科学ネットワーク長・医科学研究所長



懇談会で挨拶をする 渡邊 雄一郎
実行委員長・総合文化研究科 教授



懇談会場の様子

優秀ポスター賞受賞者

森泉 寿士	医科学研究所
中村 毅	農学生命科学研究科
梅谷 実樹	総合文化研究科
小倉 尚晃	農学生命科学研究科
峰 翔太郎	新領域創成科学研究科
西田 純	医学系研究科（付属病院）
塩田 裕介	先端科学技術研究センター
小島 寛人	薬学系研究科
松岡 真生	農学生命科学研究科
戸塚 隆弥	理学系研究科
岩瀬 晃康	医学系研究科（付属病院）
菅原 康平	農学生命科学研究科

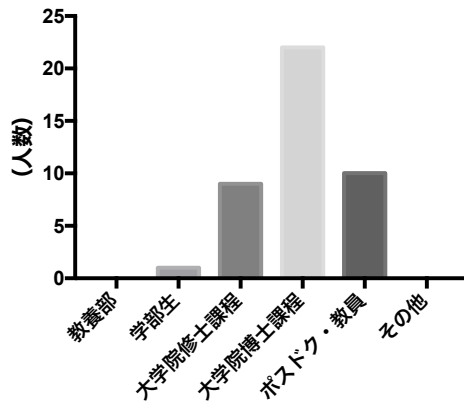
笠原 良太	領域創成科学研究科
横沢 匠	理学系研究科
西田 達	医学系研究科（付属病院）
神田 侑季	医学系研究科（付属病院）
Kanuganti Jaya Sanjana	工学系研究科
隈本 宗一郎	医科学研究所
永野 雄大	情報理工学系研究科
齊藤 友理	薬学系研究科



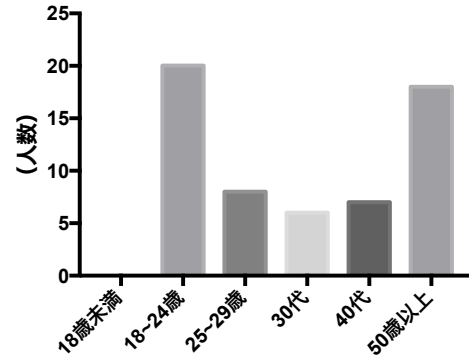
集合写真

発表者・来場者アンケート集計結果

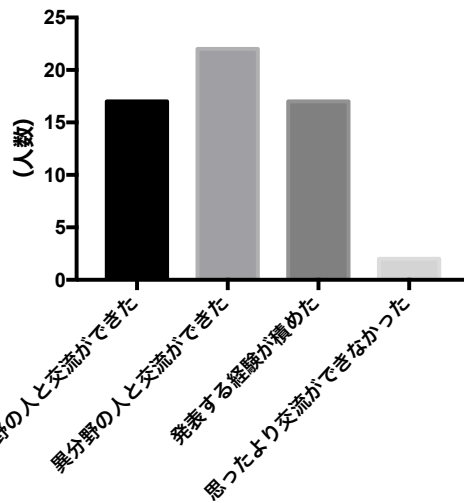
発表者の身分



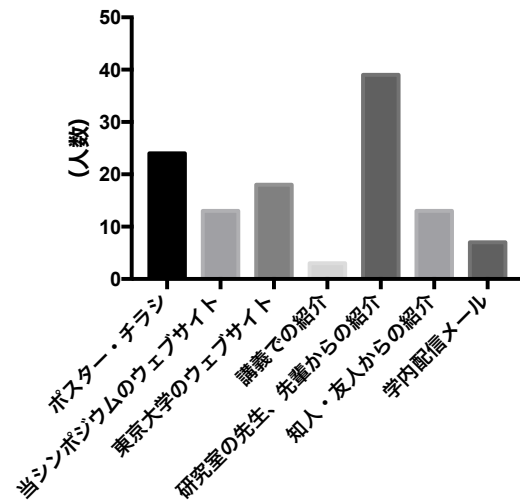
一般来場者の年齢



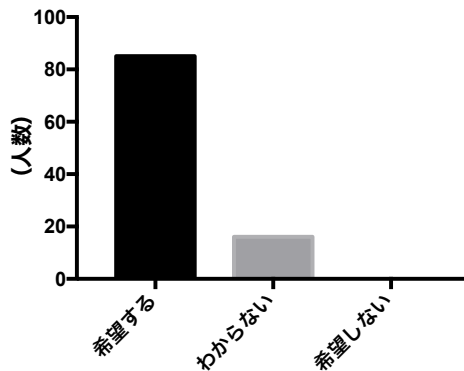
発表した感想



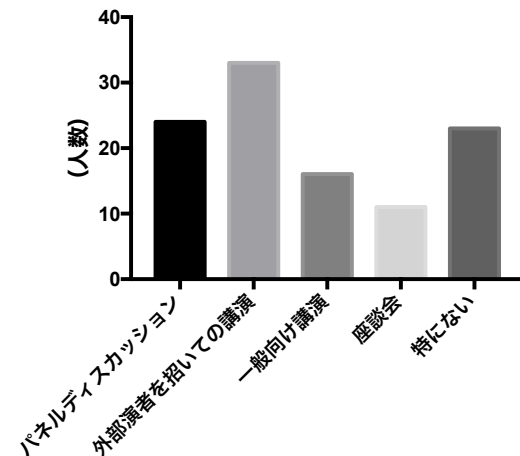
発表・来場のきっかけ



来年度も生命科学シンポジウムの開催を希望するか



次回取り上げて欲しい企画



アンケートの結果、84%の方が来年度も生命科学シンポジウムを開催を希望する、とお答えいただき、本シンポジウムが生命科学研究者間の部局横断的な交流や、一般の方々に生命科学への関心を持っていただくきっかけとなった感じ、大変うれしく思っています。

最後に、本シンポジウムを開催するにあたり、ご講演いただいた講演者の皆様、講演座長、ポスター賞審査員の皆様、そして協賛・広告の掲載をいただきました団体・企業の皆様に深謝いたします。

.....
文責・問い合わせ先

東京大学 生命科学ネットワーク 運営事務局 info@lsn.u-tokyo.ac.jp

駒場1キャンパス 17号館1階